

2018年2月15日 建設通信新聞 第10面 (最終面)

合格点を得れば必ず取得 試験傾向を知って効率化

施工管理技士の資格保持者はあらゆる企業から引く手あまたの人材といっても過言ではない。建設業に身を置く者であれば、受験資格を満たせばすぐにでも受験することをおすすめしたい。なぜなら、今の時期は試験に挑戦する絶好の機会と言えるからだ。そこで今回は施工管理技術検定の概要を紹介したが、今回は試験の傾向について分析していく。

■敵を知り己を知れば百戦危うからず
試験傾向を知ることが、合格するため

の第一歩だ。まず、国家試験である1級施工管理技士試験は、どの科目についても1次試験といえる学科試験と、2次試験である実地試験が存在し、両方に合格することではじめて施工管理技士を取得できる。

学科試験は、4つある選択肢の中から正しいもの、あるいは誤っているものを1つ選ぶ「四肢択一」式(マークシート式)の問題である。実地試験は記述や論述が必要となるためペース配分が難しい

② 施工管理技士への道

最小の努力で合格へ！



無駄なく学習を進めることが合格のかぎ

試験だが、学科試験は時間配分に注意すれば正解肢を選択することに専念でき

る。そのため、出題形式としては受験しやすい形式といえるだろう。

学科試験の合格率は横ばいを保っているが、出題内容は毎年難化傾向にある。決して容易な試験ではないと認識しておこう。しかし、施工管理技術検定は「上位何パーセント」といった競争試験ではなく、合格点を得点できれば全員合格も可能な試験である。努力し

ただ分だけ確実に結果を得られる試験であり、学科試験の合格基準は正解率60%と

ほぼ一定である。難易度は上がっているが、勉強法を誤らなければ十分合格できる試験である。

■なぜ、試験傾向を知る必要があるのか
なぜ、試験傾向を知る必要があるのだろうか。その理由は2つある。

1つ目の理由は試験傾向を研究することにより、無駄なく学習を進めることができるということ。もう1つは施工管理技術検定試験の出題範囲は幅広く、この範囲をくまなく勉強していたのでは、いくら時間があっても足りないからである。試験傾向をつかむことにより、習得しなければならぬ重要な論点を絞り込み、効率良く学習を進めることができる。

次回は、学科試験の学習のポイントについて説明していく。

(C I C 日本建設情報センター)